

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	R3年 4月30日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長 立澤 秀子
	部署名	学校教育課
	記入者名	久富 芳明

1 | 協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国から入国(転入)し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会(学校教育課)が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。 ・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。 	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	対象となる児童生徒 28人	
協働事業決算	総額711,000円 (うち市負担分711,000円)	
	簡単な内訳	活動単位 一時限 小学校45分、中学校50分 一時限あたりの委託料 1,000円
実施期間	令和2年4月8日 から 令和3年3月26日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日：令和3年4月15日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 支援授業時間毎の活動報告書を支援者毎に作成し、課題を相互に確認することが出来た。 児童生徒により個人差があり、コミュニケーション能力の向上を目指した。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 【団体】 本事業の意図を支援スタッフにも理解してもらい、児童生徒の能力向上をより高める。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらおう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		